

アンケートの集計報告をお届けしたところ、早速、古内栄一氏より便りがありました。無断で、古内氏にはご無礼かと思いますが、1部を掲載して、古内氏の近況を紹介したいと思っております。このような連絡が、会員の方々の活動をより活発にするものと信じています。

「お手紙と通信受けとりました。当方あまりにも自然が多過ぎ”てどうして良いやら判らずで、結局何もまとまらないのが実情です。目下はフモから大分離れてしまっているのですが、基礎はフモにあります。植生調査と、その復元について行政関係者と仕事を始めているところで、自然破壊をどこでくい止め、破壊したのをどうして復元し、又、復元指導していくか；またいかにして自然保護の思想を広め、一般に理解させたらよいか。を学校の授業の合間にやりますので、フモの余裕がなくなりました。山へ出る度にフモに出会い、”これも見たことないな””と思っても、捕えている時間が少なくて、ついそのままになってしまっています。

ついては”下から連絡紙の別名は別に不用ですから、KISHIDAIAでよいと思えます。負担にならないように、”下でいい”  
(1974.10.3 古内栄一)



# News

ニュースというには過ぎざるくらいもありませんが、去る8月25・26日、東京趣味談話会第6回大会が日本私学教育研究所で、開催されました。前日に行なわれた、希望者によるエクスカージョン(?)、トリコニアマンを観る会」と共に盛会で、また、期間中の又南大展示即売や、日本肉保のフモ学者の肖像写真展示も好評でした。

講演内容について、おどろいたことと、確信をせまられることが、あります。4周年三輪氏のヤハスハエトリ、オスフコハエトリの問題と、~~石野田~~石野田辰夫氏の16mmフィルムに納められていた、アシフトヒメグモの生態です。宮崎県青島で撮影されたものとのことですが、アシフトヒメグモが、花粉を数個口にくわえて、(わだわだ”花の中にもくわっている、くわえて采るのです) もぐもぐさせているフィルムです。元来、肉食と考えられていたフモが、実験では別ですが、植村利夫氏が発見された、アリマキの食すしをなめるアオヒハエトリのように、動物以外のものを口にしているのです。このアシフトヒメグモが花粉をくくくさせる習性は、……、食べているのか採るいは、別のことなのか……、疑問がわきます。どこにアモいるアシフトヒメグモの習性です。重大な結果題のように思われます。



## クモの名前を つけられた星雲

クモ類の命名には天体にちなんだものがある。ホシオ=クモ *Araneus stellus* というやホシシモリ=クモ *Pardosa astrigera* がそれである。斑臭に着目して、シラホシヒカクロホシと命名することから、それらも入れると日本産のクモのうち「星」の名を冠したものは19種数えおぼすことは出来るし、ハンゲツオスナキクモというのだから天体に縁のある命名であろう。

それでは逆に、下を向いて地上にはかり探さなくて、ふりあみく天球上に「虫」類を探してみるとどうであろうか。星と星をつないで動物や人物や物の形にみたてたのが星座であるが、現行の星座は日本でみえないものもふくめて88座あるうち、虫類に關係ありやうなのは「マダラ座」だけである。夏の宵空に、南に大まかS字形をえかく非常に美事な星座である。中国ではこのS字形を「竜」にみたてているのだから、「マダラ」を命名したのは星座発祥の地バビロニアをしのびせせる。なお春の宵にみえる小屋座「かに座」も節足動物ではある。星の和名にその範圍をひろげると、バビロニアとはちがって、ムシの類の多い日本の風土を反映してか、たいてい「バウエー」が増す。ふたご座のカストルとポルックスの2星を「蟹の眼」といふ村でよぶことがある。冬に南の地平線に出没する1等星カノープスを「源五郎星」とよぶ。ふたご座があるが、その命名の由来の1解釈として、この星が山頂でちろちろするのが小川のゲンコロウに似ているからであろうという説もある。宵の明星・既の明星でしられる金星にはいろいろの名がつけられているが、そのうち最も奇抜なものに、大井川上流でいう「ゴケダリ」という方言がある。ちろちろとでて、すぐたむし星というので「ゴキブリ」にみたてたものらしい。前出のマダラ座 S字形の途中にあ

る、 $M^1$ 、 $M^2$ の肉眼的2重星を「蟹星」といふという報告もある。接近した2星がちらちらと交互に光る印象からきているからである。Wの字の形をしているので有名なカノープ座に「ちろちろし、マダラ星」という美しい名をつけている土地もある——銀河の面に舞うまぼろしの蝶。

そのほか「はり」クモの名前をあだ名づけられている天体が南の空にある。かじき座のタランチュラ星雲 *Tarantula nebula* がそれである。この天体は3つもの恒星とは別種のもので、ガス星雲といわれる。高温に熱せられたガス雲が光っているものである。星として登録されている名でいえば、かじき座30番星(30 *Doradus*)であり、星雲目録でいえばNGC 2070番である。これは望遠鏡で観察した人が、入り乱れて光るPモルフォスなガス雲の外観から、南の暑い土地にいる大型毒クモ・タランチュラの姿を連想して命名したものである。北の空にもカ=星雲という有名な星雲があるが、これも望遠鏡で見た姿から *Crab* という名前になったものであり、それと同じテンである。もともとこの人ははじめはダニ・南京虫に似ていると記述していたのだが、品が無エスエスするためか、いつのまにかダニ=星雲ではなくてカ=星雲という名が固定したようである。

かじき座という星座は熱帯より南の方ではないと見えない。実はこのタランチュラは、大マゼラン雲の内部にある星雲なのである。マゼラン雲というのはわれわれの銀河系と同格の銀河であり、ちろちろと幾分のような存在である。したがってこの星雲の距離は大マゼラン雲と同じ約170,000光年となる。望遠鏡で見たたいたいの視直径は満月の1/30であるが、もしこのタランチュラがわれわれの銀河系内の同種のカス星雲オリオン雲星雲とあなほ距離に存在したとすれば、それは星座全体にひろがるくらいの大規模なものである。うのとまたほタランチュラ星雲内部に存在するいくつもの

超巨星のため夜の地上に導きとくらくらいに明るくかがやくほろがある。

ドイツのアマチュア天文学家がアフリカに出張して撮した素晴らしいカラー写真が Sky and Telescope 誌、1974年8月号124ページにのっている。熱せられた水素原子の放射赤い光が何本もフラメント状の濃淡をくわたり、突入観をみると、8本の足が放射状にのびているように思えてくる。

(1974.10.16 横尾広光)

○ Tarantula nebula のと、横尾氏にのみました。

### 用語解説

(中山英彦から刊行された、谷津内田、動物分類名辞典 pp.1133-1158 からの抜粋です)

#### Alpha taxonomy

アルファ分類学。種を他の種から分け命名するレベルにおける分類学。(Mayr et al., 1953)

#### Beta taxonomy

ベータ分類学。種を上下の階級の自然分類群に配列するレベルにおける分類学。(Mayr et al., 1953)

#### Gamma taxonomy

ガンマ分類学。種内の変異を分析し進化過程を研究するレベルにおける分類学。(Mayr et al., 1953)

#### Gamma-one taxonomy

種内の変異の実態を研究するレベルにおけるガンマ分類学 (Hubbel, 1956)

#### Gamma-two taxonomy

種内の変異の要因を理論的、進化的に解析するレベルにおけるガンマ分類学。(Hubbel, 1956)

#### Classification

分類。Klassifikation (独)。生物を連続性・類似性により群に分けること。分類学の一部をなす。分ける過程および、その結果である。

生物の配列された形をいう。

(Simpson, 1961)

#### Taxonomy

分類学。Taxonomie (独)。生物の分類 (Classification) の理論的研究で、その基礎、原理、方法、規約などを含む。分類の材料は生物であるのに対し、分類学の材料は分類である。

(Simpson, 1961)

#### Systematics

系統分類学。Systematik (独)。生物の種類の多様性、およびそれら相互間のあらゆる関係を研究する科学。(Simpson, 1961)

#### Artificial classification

人為分類。Künstliche Klassifikation (独)。少数の形質に基づく分類。

#### Artificial taxonomy

人為分類学。Künstliche Taxonomie (独)。少数の形質に基づく分類学。少数の目的に通う。(Michener, 1963)

#### Natural classification

自然分類。natürliche Klassifikation (独)。natürliches System (独)。

1). 多くの形質に基づき、生活史の全過程を考慮に入れた分類。多くの目的に通うもので、節約と予想との価値を具備する。

2). 系統学に基づく分類。(Darwin).

— つづ —

2"意見・2"希望をお寄せ下さい。

2"と7"の間に第7とか、字を大きくしとか、1"と2"を最終版の名前を決めるとか、7"と2"結構。宜しくご協力を!

○ 4個字の輔氏。夏お会いしたと。学会で発表された。ハナツクモヤ。カレハクモヤ。ホネンコハエツト。ウツウみせていたと。大夏お元気で。ハナツク。採集に全かかられている様子。

○ 古内隆氏：勤労先学研での仕事が多忙を極めているとのこと。編集部内では。クモに劇する便利屋さん。クモの採集が仕事に当たることもしばしば。カラスチ(本誌では両手ア指)に。活躍されている。

○ 古内栄一氏：1ページに。近況お知らせした。

○ 権田重雄氏：主に地面にいるクモを集めている。また。一人ア洞穴に入っている。しやう猛者。冬は彼のレーズンに。なっている。

○ 石野田居夫氏：学会で。アエフトヒムクモの習性を発表され。皆を。おどろかされた。

○ 石山欽幸氏：中学校の先生になり。忙がしさと同居されている。

○ 萱嶋泉氏：1か月に数回は。お会いして。中学生。高校生が。びびり。たしに。初向。クモの手ほどきを。もらっている。先生の面倒見の良さは。有名。

○ 小林久俊氏：我々の世代で。就職して。お奥様を。もらい。その上。研究に。勤ま。さかんな人は。この人くらい。カンバツテ。もらわなければならない。

○ 小石敏文氏：国際クモ学者会議に。出席された。日本では。はじめのクモ学者。鈴木正行氏は。サグトラムン学者として。有名ですから。別に。マセて。もらいます。

○ 近藤昭夫氏：氏が。東邦大学に。勤ま。てから。ずっと。クモを。卒業論文の。材料。に。している。学生が。出て。います。日本の。クモの。次世代。も。含め。ている。貴重。です。(僕もお世話に。なっています。)

○ 熊田憲一氏：彼に。会い。た。けれど。豊島園昆虫館に。行って。下。さ。し。た。館に。と。って。は。く。ら。い。な。い。存在。と。な。り。て。います。(その。か。で。は。社会。で。は。ち。と。と。り。の。た。け。じ。)

○ 岡見裕次氏：アフリカに。

○ 栗原輝代子氏：クモの。写真を。と。せ。ると。目。か。ク。ク。と。輝。き。ます。クモの。仕事。の。お。ま。り。就。職。口。を。探。し。て。いる。と。か。宣。し。く。(phone: 0427-23-4416)

(以下次号)

談話会の連絡紙が正式に。出来。て。は。じめ。の。通。信。で。す。専。門。局。に。は。る。自。分。が。勝手。に。作。っ。て。いる。錯。覚。に。と。ら。れ。ま。す。是非。是非。お。便。り。を。下。さ。い。

会誌 Kishidaia に。は。研究。報告。リスト。生態。記事。etc. の。保存。に。値。い。する。もの。を。載。せ。たい。と。思。い。ます。記録。と。して。この。連絡。紙。も。な。る。べく。く。ら。い。な。い。もの。く。ら。い。な。い。もの。に。お。か。と。り。も。お。し。ら。ぬ。で。あ。る。と。考。え。て。います。

例。え。ば。論文。の。紹介。解説。研究。方法。の。発表。情報。交換。など。を。具体的。には。生態。写真。の。とり。方。など。か。今日。の。せ。ら。お。り。用語。解説。など。か。論。評。など。か。……衆。知。を。集。め。て。クモ。事。典。など。か。出来。ると。い。い。た。り。とも。思。い。ます。この。事。典。の。タ。ク。キ。合。を。載。せ。て。い。か。る。と。思。い。ます。

東京蜘蛛談話会

本部：191 日野市豊田1896、萱嶋市  
 専門局：187 小平市学園東町25-31  
 小石氏  
 Kishidaia 原稿送付先(編集部)：  
 221 川崎市中原区小杉町1-540  
 小野市  
 年会費：700円、合計年度：1月~12月

原稿	KISHIDAIA	募集
連絡紙		集